

シンポジウム

住民に向けての防災教育とは—まちぐるみで防災力を向上させるには— 実施報告書

弘前大学防災社会研究会が定期的実施している公開研究会の一環としてシンポジウム「住民に向けての防災教育とは—まちぐるみで防災力を向上させるには—」が平成27年1月31日の午後、弘前市下白銀町にある弘前文化センター中会議室において開催された。参加者は約40名であった。以下にその内容を記す。

主催者の代表として片岡俊一から挨拶があった後に、稲垣文彦氏から基調講演が行われた。稲垣氏は自己紹介に続いて公益社団法人中越防災安全推進機構の紹介をされた。公益社団法人は役所でもなく、住民組織でもないが、そのことが人材の育成や地域づくりで有利であることを指摘されていた。ついで、稲垣氏も委員として加わった新潟県が実施した県内市町村の地域防災力向上の取り組みに関する調査結果が紹介された。調査結果から得られた今後の視点として、情報交換をする場作りや研修会・講座後のフォローアップ体制を指摘されていた。さらに中越市民防災安全大学の取り組みの紹介がなされ、地域に恩返しをすること、組織化が重要であることを強調された。「中越市民防災安全士」の活用として、地域の防災訓練や応急手当の講習会での手伝い、市民向けの講習会の講師などが示された。最後に地域づくりについて、「北風と太陽」という言葉を用いてご自身の意見を述べられ、講演を終了された。災害復興にあつて「北風」は危機感をあおることであり、それだけではなく、その地域の良さや頑張り具合を暖かく評価することが重要とのことであった。

ついで、片岡が弘前市の地域防災リーダー育成事業の現状として「弘前市防災マイスター育成講座」を中心とした説明を行った。まず、育成講座の内容、経緯を述べ、防災士の説明を交えた後に、「防災マイスター育成講座」の位置づけを述べた。全国的に同種の講座・事業は多くなされているが、防災士の受験資格が得られる同種の事業の中では時間数は多く、講師は充実しており、費用負担が少ないといった特徴が紹介された。

最後に、基調講演をされた稲垣氏と片岡が弘前大学地域社会研究科の平井太郎准教授の司会で対談を行った。対談は、中越防災安全推進機構の発足のきっかけの紹介から始まったが、その後長岡市内に多くある高等教育機関との連携の話に移った。さらに、長岡市で行われている防災教育から生涯教育への移行の話題が上がった。長岡市では市民安全大学とは別に、様々なテーマについてその内容を深めたい市民に対して「まちなか大学院」という生涯学習の仕組みがあり、一部の方は防災をテーマとされているとのことであった。一方で、自主防災組織の活動の活発化についても話題となり、長岡市では活動事例発表会を実施するなど、自主性を重んじており、外に向かって行動することが重要との指摘をされた。また、人口減と高齢化が災害を大きくすることを稲垣氏は指摘されていた。最後に、片岡が弘前市に対する希望を述べ、対談を修了した。

なお、このシンポジウムを実施するに当たって自然災害研究協議会東北地区部会及び日本自然災害学会東北支部から財政的支援を受けた。基調講演をお願いした稲垣氏は弘前市から弘前大学が受託した「防災リーダー育成教育に関する調査研究」の一環として招いた。記して関係各位に謝意を示す。

(文責： 片岡俊一)

概要

日時： 平成27年(2015年)1月31日, 14:30~16:30

場所： 弘前文化センター2階, 中会議室(弘前市土手町31)

主催： 弘前大学防災社会研究会

後援： 弘前市，青森県，弘前大学，東奥日報，陸奥新報，FMアップルウェブ，
自然災害研究協議会東北地区部会，日本自然災害学会東北支部

参加費： 無料

内容：（総合司会 白石睦弥）

○主催者挨拶 片岡 俊一（弘前大学防災社会研究会代表） 14:30～14:35

○基調講演 公益社団法人中越防災安全推進機構 復興デザインセンター長 稲垣文彦氏
「中越大震災 10年から考える防災人材育成の未来」 14:35～15:15

○弘前市の現状報告
片岡 俊一 15:15～15:35

休憩（10分）

○対談「地域，住民に必要な防災教育とは」 15:35～16:30

司会：平井太郎（弘前大学地域社会研究科）

対談者は基調講演の稲垣氏と片岡

連絡先： 弘前大学大学院理工学研究科 片岡俊一

写真



写真 2 稲垣氏による基調講演



写真 1 片岡による報告



写真 3 対談風景



写真 4 会場の状況